

(2) 「能動的学習」

1. 目的・仮説 「情報発信力※2の育成」は、「能動的学習」において日常的に情報発信の機会を設けることで体験的に育成できる。(※2 発信力=内的情報を出力する能力)

2. 研究内容・方法
 - (1) 学校図書館を活用した探究的活動職員研修会
 1. 目的 文献調査を中心とした探究的学習について、先進校の実践事例を聞き、今後の指導の参考とする。
 2. 日時 9月7日(金) 15時50分～16時45分
 3. 場所 米子東高校図書館
 4. 講師 伊藤 史織氏(玉川学園メディアリソースセンター 司書教諭)
著書 『学びの技』(玉川学園出版部)
玉川学園で行われている、論文作成の基礎力を1年通して養う「学びの技」。その実践をふまえ、テーマの決め方から、情報収集、効果的なプレゼン資料の工夫など、ラーニング・スキルの「技」が紹介されている。(本校図書館にあります。)
論文共著 「探究的な学習の年間カリキュラムによる情報活用スキルの習得とそれに及ぼす要因の検討」
「探究的な学習が継続的・発展的に繰り返される家庭において生じる問題点の検討ー玉川学園の取り組みを事例としてー」
他

 5. 講演タイトル・内容
「玉川学園探究型学習『学びの技』の実践について」
 - ① 探究型学習の意義
 - ② テーマ設定時での指導
 - ③ 情報をまとめるプロセスとそこでの指導

 6. 検証 玉川学園において長年、探究型学習に取組み、成果を挙げておられる講師のノウハウは、探究活動を指導する経験の少ない本校教員に大きな参考となった。「課題探究応用」の中間発表に向けての指導にすぐに役立つものであった。

(2) 県外エキスパート教員招聘事業

1. 目的 県外の高い教科指導力を有するエキスパート教員を招聘し、示範授業や研究協議をとおして教科指導力の向上を図る。また県外のエキスパート教員の授業を通して、生徒の知的好奇心の喚起を図る。
2. 日時 平成 30 年 12 月 12 日 (水) 英語・数学
平成 30 年 12 月 13 日 (木) 国語・理科 (地学), 公民 (現代社会)
3. 会場 鳥取県立米子東高等学校 (鳥取県米子市勝田町 1 番地)
4. 講師 国語: 神徳 圭二 (奈良女子大学附属中等教育学校)
数学: 河内 一樹 (灘中学・高等学校)
公民: 小澤 富士夫
(前筑波大学附属駒場中高校, 現東京大学教育学部講師)
理科: 石川 勝也 (開成高等学校)
英語: 寺口 浩 (神戸女学院中等部・高等部)

5. 日程 12 月 12 日 (水)

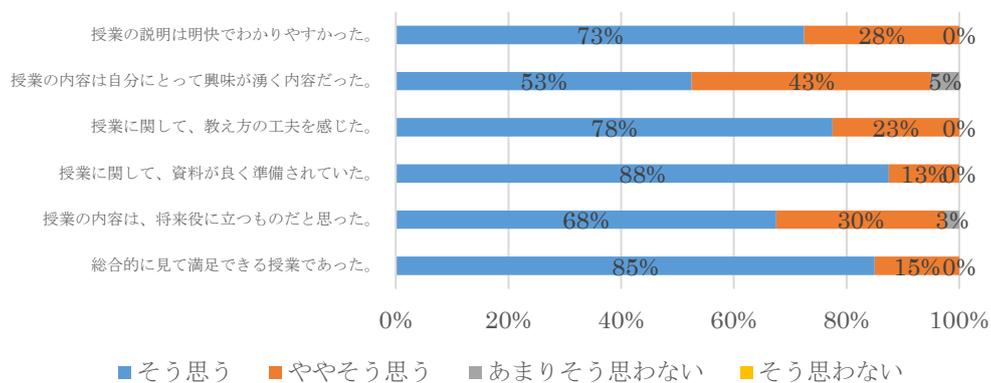
本校校時	時間	2 年 1 組	1 年 5 組
5 限	12:50~13:35	数学示範授業	英語示範授業
6 限	13:45~14:30	河内 一樹	寺口 浩
7 限	14:40~15:25		
8 限	15:35~16:20	数学研究協議	英語研究協議
担当教員		岩崎 浩	吉村 真司

12 月 13 日 (木)

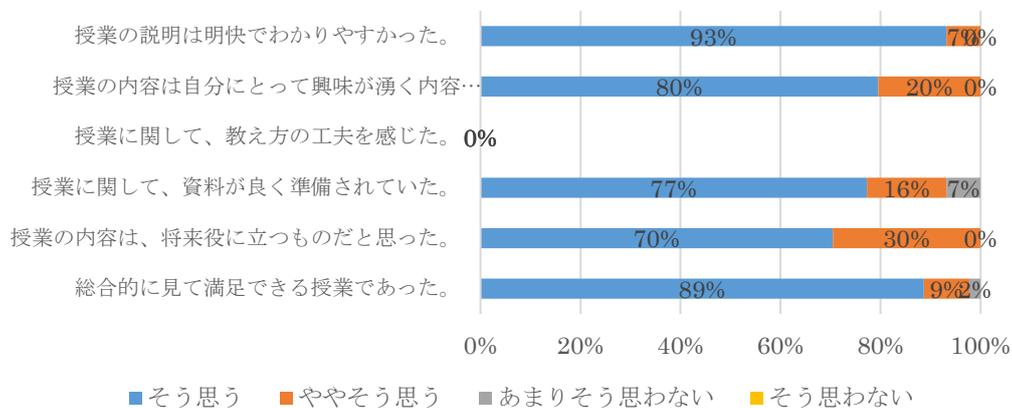
本校校時	時間	2 年 4 組	1 年 1 組	2 年 5 組
5 限	12:50~13:35		公民示範授業 (現社)	
6 限	13:45~14:30	国語示範授業 (古典)	小澤 富士夫	理科示範授業 (地学)
7 限	14:40~15:25	神徳 圭二		石川 勝也
放課後	15:50~16:40	国語研究協議	地歴公民研究協議	理科研究協議
担当教員		福田 将士	小笠原 雅史	濱崎 翔平

6. 検証 難しい解法ではなく、基本に立ち返って考えることで問題の本質をとらえることを重視した授業であった。生徒の思考力の向上には、普段の授業の中でも十分に行えることが実感できた。
以下に授業後アンケートの一部を記す。

授業アンケート 英語（1 - 5実施）



授業アンケート 数学（2 - 1実施）



(3) 「海外研修」

1. 目的・仮説 「情報発信力」は、「海外研修」において母国語以外での情報発信の機会を与えることで多様な言語スキルが身につく。
2. 研究内容・方法
 - (1) オーストラリア，アデレード海外研修
 1. 目的 オーストラリア，アデレードへの海外研修を通じて，国際的視野で科学的事象を探究する力，国際語である英語を用いてコミュニケーションをする能力の向上を図る。今年度は，次年度の海外研修実施に当たり事前調査を行う。
 2. 対象学年 1年次生徒希望者5名 第2学年生徒希望者5名
 3. 内容 オーストラリア，アデレード海外研修
 4. 実施方法 平成31年3月2日（土）～3月11日（月）（7泊10日）
 5. 内容の詳細 アデレード大学，研究機関，アデレード市内の高校において，「自然科学」分野等における研修を行う。事前研修を4回程度行うとともに，校内での事後報告を行う。

<予定訪問先>

- (1) The Australian Science and Mathematics School（理数教育に特化した高等学校）
- (2) Flinders University（大学）
- (3) Botanic Gardens of South Australia（植物園、研究施設）
- (4) Cleland Wildlife Park（野生動物公園、研究施設）
- (5) South Australian Museum（博物館）
- (6) Watiparinga Reserve、St Kilda Adventure Playground 周辺など（調査地）



<事前研修>

3月～6月	<科学>（全員）鳥取県中海に関するレポート作成 <英語>（全員）・Listening と簡単な Speaking の自学 ・TED を観て、理解したことを ALT を交えて英語討議
7月～9月	<科学>（各班） (Animal 班) ・鳥類ラインセンサス、ツングレン装置組み立てなど (Environment 班) ・実習内容検討（水質土壌調査）、水質（pH、溶存酸素、化学的酸素要求量、アンモニウムイオン濃度、硝酸イオン濃度）パックテスト予備実験、調査用紙作成 (Plant 班) ・シャトーおだか現地調査（ユーカリ）、樹高，胸高長，土壌水分，土壌 pH，葉面積，気孔数，横断面
10月～ 12月	<科学>（各班） (Animal 班) ・水鳥公園にて水鳥調査。種数，鳥数 (Environment 班)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌調査(勝田山：地温，土壌 pH，含水量，保水可能性)、水質調査 (博労町湾処，新開放水路分岐)、 ・ 水鳥公園 (つばさ池，越水，中海) における水質調査 ・ 加茂川分水場所での水質検査 ・ 大山にて土壌調査、土壌含水量分析 (Plant 班) ・ シャトーおだか現地調査 (ユーカリ)、土壌発芽検査 ・ ユーカリ気孔数測定、土壌アレロパシー試験 <p><英語> (全員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規 ALT に対して3種の英語プレゼンテーション (地域・学校・水) を行い、質疑応答 ・ ALT と生徒2名で英会話演習
1月～2月 (予定)	<p><科学>・パワーポイント作成など準備，リハーサル</p> <p><英語>・研究についてプレゼンテーション準備</p>

6. 検証

6月に科学・英語面での選考をした結果、10名の参加者が決定した。参加者は自然科学部に入部し、事前研修を受けながら科学的研究，英語両面で力の向上を研修実施の3月まで続ける。生徒の意欲は大変高く、研修実施後の他の生徒へ好影響が十分に期待される。

C 実践力の育成

(1) 自然科学部養成

1. 仮説・目的 「実践力」は、自然科学部及び希望者を対象に、「自然科学部養成」を行い、地域社会への参画、社会貢献の体験を実際に行うことで育成できる。また、将来的に参加生徒が他の生徒のロールモデルとなり他の生徒へ効果の波及が期待できる。

2. 研究内容・方法

1. 目的 自らの希望により入部した自然科学部の部員に対し、多様な科学的体験の機会を提供することにより、より高度な21世紀型能力を身に付けさせるとともに、他の生徒のロールモデルとなる生徒を育成する。

2. 対象 自然科学部員

3. 内容

(1) ひらめき☆ときめきサイエンス

1. 目的 最先端の研究成果に、中学生、高校生が、直に見る、聞く、触れることで、科学の面白さや重要性を感じてもらう。

2. 期日 平成30年8月5日(日)

3. 場所 鳥取大学医学部生命科学科棟

4. 内容 「細胞から染色体までミクロの世界を覗いてみよう！」

講師 久郷 裕之 鳥取大学大学院医学研究科・教授

(1) 講義「遺伝子・染色体って何？」

(2) 講義「染色体を利用して何が出来る？」

(講師 香月 康弘 氏)

(3) 実験「正常細胞とがん細胞を顕微鏡で見よう」

(4) 実験「染色体標本をつくってみよう」

(5) 実験「染色体を見てみよう」

5. 参加者 自然科学部員 6人

(2) 平成30年度SSH生徒研究発表会

1. 目的 スーパーサイエンスハイスクールの生徒による研究発表会を行い、生徒の科学技術に対する興味・関心を一層喚起するとともに、その成果を広く普及することにより、スーパーサイエンスハイスクール事業の推進に資する。

2. 期日 平成30年8月8日(水)～9日(木)

3. 場所 神戸国際展示場

4. 参加者 希望生徒 6人

5. 発表テーマ 「発光バクテリアの発光の要因」

(3) わかとり科学 虎の穴2018

1. 目的 中学生6人を対象とした実験教室を実施し、中学生の科学的・知的好奇心の育成を目指す。

2. 期日 平成30年10月21日(日)

3. 場所 鳥取県立米子東高等学校 生物実験室

4. 日程 9:30～12:30(9:00受付開始)

5. 内容 生物実験「犯人を捜せ～DNAフィンガープリント法を用いた模擬法医学教室～」

5. 講師 米子東高等学校 教諭 宮本 圭介

米子東高等学校 自然科学部員

6. 参加者 自然科学部員 7人 中学生 6人

(4) 日本薬学会 中国四国支部学術大会／高校生オープン学会

1. 目的 高校生に対して薬学分野への理解を深める
2. 日時 平成30年11月11日(日)
3. 場所 米子市文化ホール1F イベントホール
4. 日程 10:20~12:20 高校生による研究発表(発表8分、質疑応答5分)

座長 守谷 智恵、加地 弘明(就実大学薬学部)

- 1 オカダンゴムシのフンからの防カビ物質生産菌の単離
島根県立出雲高等学校
- 2 高等学校校舎内手洗い場における一般細菌の分布状況と汚染抑制法について
鳥取県立米子東高等学校
- 3 荒金鉱山に学ぶ排水処理と公害の防止についての研究
青翔開智高等学校
- 4 オオヒョウタンゴミムシの生息状況からみる環境変化とその保全
青翔開智高等学校
- 5 アリルイソチオシアネートの防黴効果
学校法人大多和学園 開星中学・高等学校
- 6 若返りの水「ハンガリアンウォーター」の伝承の解明に向けて
ノートルダム清心学園 清心女子高等学校
- 7 変形菌は植物の木力を知っている～変形菌の発生状況と樹勢の関係～
岡山県立井原高等学校
- 8 植物の匂いによる植物病原菌うどんこ病菌の防除の可能性
岡山県立井原高等学校

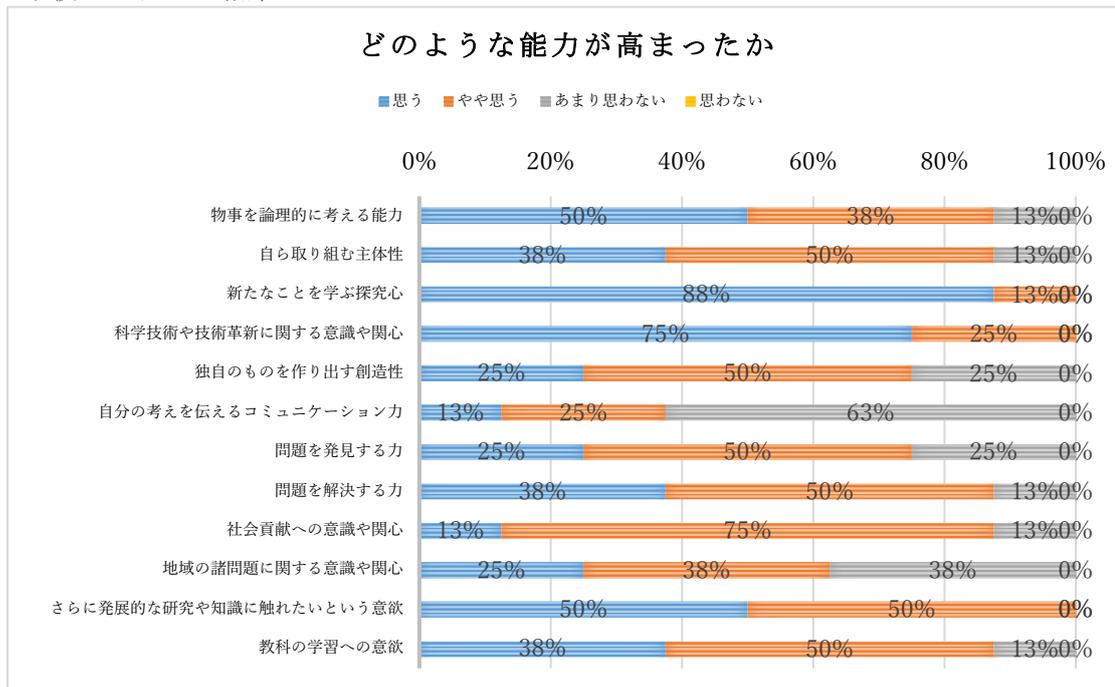


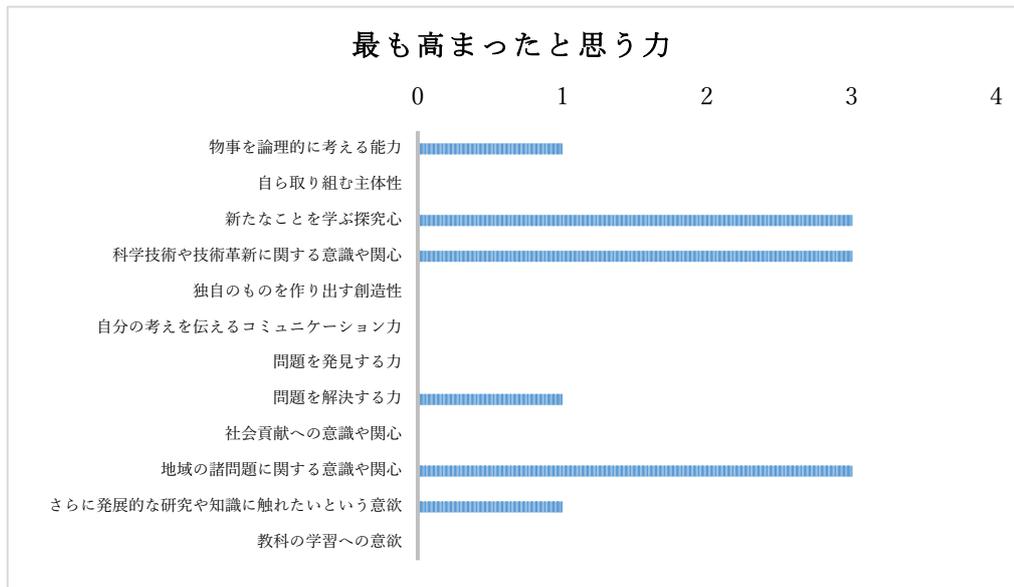
12:30~13:30 ランチョンセミナー「シャボン玉とナノメディシン」
講師：日本薬学会会頭 奥 直人
(帝京大学薬学部教授・静岡県立大学名誉教授)
座長 坪井 誠二(就実大学薬学部長)

13:40~14:00 表彰式

5. 参加者 自然科学部 8人

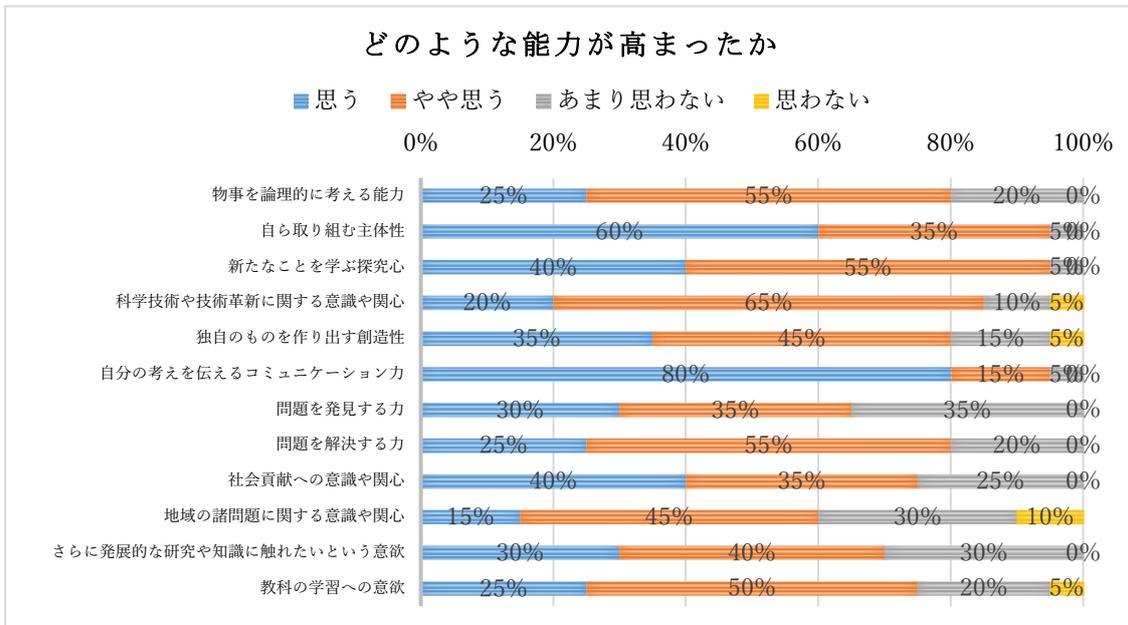
6. 事後アンケート結果

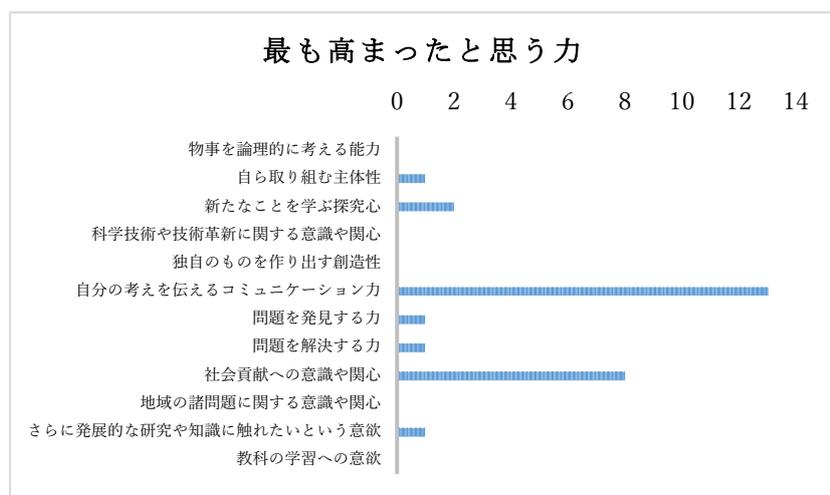




(5) 米子こどもの科学教室 2018

1. 目的 鳥取県内の子どもたちに理科・数学及び科学技術の育成と科学の楽しさを伝える。
2. 日時 平成30年11月17日(土) 10:00～15:00
3. 場所 鳥取県立米子産業体育館(米子市東福原8丁目27-1)
4. 参加者 自然科学部員他 21人
5. 参加ブース 「ゾウリムシを見よう」「ふちんしをつくろう」
「イモリの赤ちゃんを見よう」「錯視を体験しよう」
「プランクトンを操ろう」
6. 事後アンケート





<生徒の感想（抜粋）>

- ・こどもとふれあうことを目的に参加したが、準備の際に困っている人を自分で見つけて、自分のできることを実行するようにできたのでその面でも良かったと感じた

(6) 探究的学習「動物細胞培養の手法」に関する講義・実験

1. 目的 自然科学部生徒を対象に、自然科学分野への
2. 日時 平成30年12月18日（火）
3. 場所 鳥取県産業技術センター食品開発研究所
4. 内容 動物細胞培養手法に関する講義・実験
講師 鳥取県産業技術センター 食品開発研究所
バイオ技術科 特任研究員 杉本優子 氏
5. 参加者 自然科学部員・希望者 6人

(7) スペース・サイエンス・ワールド in 星取県 国際シンポジウム

1. 目的 「はやぶさ2」に関連する展示や体験を通し、また国内外のトップレベルの研究者による講演などにより、最先端の研究に触れる。
2. 日時 平成30年12月22日（土）～23日（日）
3. 場所 米子コンベンションセンター 多目的ホール・小ホール
4. 内容 ①「はやぶさ2」関連模型等展示・体験
②国際シンポジウム
③講演 演題『はやぶさ2の挑戦 リュウグウ探査状況速報（仮）』
JAXA 宇宙科学研究所 准教授（はやぶさ2プロジェクト マネージャー） 津田 雄一 氏
テーマ『はやぶさ2が解明する太陽系や地球生命の起源：鳥取からの発信（仮）』
名古屋大学 大学院環境学研究科 教授（はやぶさ2プロジェクト サイエンス代表研究者） 渡邊 誠一郎 氏
岡山大学惑星物質研究所 教授 中村 栄三 氏
5. 参加者 自然科学部員 6人

(8) 平成30年度自然科学部冬季合宿

1. 目的 冬期、地元大山の自然に触れるとともに生態調査の手法を学び、今後の調査計画の立案をはかる。
2. 期間 平成31年2月8日（金）～2月10日（日）2泊3日
3. 場所 宿泊先 大山 雪花荘
〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山 40-3 TEL:0859-52-2411

- 実習見学先 大山自然歴史館及び大山周辺
4. 参加者 自然科学部員 6名
5. 内 容 観察指導員さんの指導のもと、トレッキング、生態調査、鳥の観察を行う。

(9) 再生医療学会

1. 目 的 自然科学部の部員に対し、多様な科学的体験の機会を提供することにより、より高度な 21 世紀型能力を身に付けさせるとともに、他の生徒のロールモデルとなる生徒を育成する。
2. 期 間 平成31年3月21日（木）～3月23日（土）2泊3日
3. 参加生徒 自然科学部員 4名
4. 合宿の内容 (1) 第18回日本再生医療学会総会
中高生のためのセッション（アドバンスコース）参加
(2) 関西国際空港訪問 空港見学プラン参加 見学・講義
(3) 須磨海浜水族園訪問 「生き物スクール」参加 見学・講義
4. 検証 地域で開催される科学イベントを中心に、積極的に参加した。特に中学生を対象とした「わかとり科学 虎の穴2,018」や小学生を対象とした「米子子どもの科学教室2018」には自然科学部員を中心に多くの生徒が自主的に参加し、事後アンケート結果からも、自分の考えを伝えるコミュニケーション能力の向上を実感するなど、実践力の向上につながった。

(2) 「Science Challenge」

1. 仮説・目的 「実践力」は、希望者を対象に、「Science Challenge」を行い、地域社会への参画、社会貢献の体験を実際に行うことで育成できる。また、将来的に参加生徒が他の生徒のロールモデルとなり他の生徒へ効果の波及が期待できる。

2. 研究内容・方法

1. 目的 科学に対して高い意欲・関心を持ち、教育課程を超えた学習・体験を希望する生徒に対して、多様な科学的体験の機会を提供することにより、高度な科学的探究心・表現・発信力を身に付けさせる。

<各種科学コンテスト・科学オリンピックへの参加支援>

各種科学コンテスト・科学オリンピックに参加し、同じ高い意欲・関心をもつ他校生徒と切磋琢磨することを希望する生徒を支援し、向上心の涵養を図る。また、本校が各種科学オリンピックの特例会場として認定されることを目指し、より多くの生徒に自己研鑽の場を提供する。

<外部発表会への参加支援>

高校生フォーラムなど課題探究活動以外の研究発表会への参加を希望する生徒を支援し、成果の発表及び他校の生徒や研究者や専門家との交流を通して、向上心及びプレゼンテーション能力の向上を図る。

2. 対象学年・コース

全学年・全コース希望者

3. 内容

(1) 第13回全国物理コンテスト物理チャレンジ2018 第1チャレンジ

1. 実施日 2018年7月8日(日)
2. 場所 米子東高等学校 物理実験室
3. 日程 13時30分から15時まで
4. 参加者 希望生徒 2人
5. 検証 受験した生徒は、その後「課題探究基礎」の授業において、リーダーシップを発揮した。

(2) 日本生物学オリンピック2018予選

1. 実施日 2018年7月15日(日)
2. 場所 化学・生物教室
管理教室棟2階
3. 日程 12時30分から15時15分まで
4. 参加者 希望生徒 36人



(3) 第17回国際高校生フォーラム

1. 目的 (1) 広い視野と深い問題意識をもち、公正で逞しいリーダーとして次代を担う高い志をもつ生徒の育成。
(2) 効果的な表現方法を用い、説得力のあるプレゼンテーションができる生徒の育成。
(3) 広汎な交流と知的・社会的刺激の授受により高度な学びへ向かう主体的生徒の育成。

2. 活動内容

- (1) 所定のテーマにもとづいて調査・研究・思索したことをもとに、
(2) 視聴覚機器を効果的に使ってプレゼンテーションしながら、
(3) 自分たちの主張や提言としてまとめ、発表する。
(4) 質疑応答と相互評価を展開し、
(5) 最後に有識者による講評・表彰（最優秀校・優秀校）を行う。

3. 今年度のテーマ 高校生が考えるこれからの時代の「仕事」
－第4次産業革命期を主体的に生き抜くために－

4. プレゼンテーション条件

- (1) 確かな裏付けにもとづいて一つ以上の明確な解決策を提示すること。
(2) 視聴覚機器、パソコン等を用いること。なお、プレゼンテーションソフトは「パワーポイント」を基本として作成することとする。
(3) 発表時間は1校20分以内とする。

5. 主催 鳥取県立倉吉東高等学校 国際高校生フォーラム実行委員会

6. 後援 鳥取県教育委員会 日本マイクロソフト株式会社

7. 参加・招待校 ・長野県松本深志高等学校 ・島根県立松江北高等学校
・大韓民国京畿道安養高等学校 ・鳥取県立米子東高等学校
・鳥取県立鳥取西高等学校 ・鳥取県立倉吉東高等学校
・シンガポール St. Joseph's Institution 以上7校

8. 日程・会場 (1) 期日 平成30年8月4日(土)～8月6日(月)の3日間
(2) 会場 (第1日、2日) 鳥取県倉吉市駄経寺212-5
鳥取県立倉吉未来中心 Tel(0858) 23-5390
(第3日) セントパレス倉吉

(3) 日程

第1日	8月4日(土)	会場	倉吉未来中心 大ホール
		時刻	15:00～16:45
		午前	会場準備・発表予行
		午後	校内実行委員会・発表予行
		開会行事・基調講演・情報交換会(17:00～)	
第2日	8月5日(日)	会場	倉吉未来中心 大ホール
		時刻	9:25～16:45
		午前	各参加校のプレゼンテーション
		午後	各参加校のプレゼンテーション
			討論・まとめ・講評・表彰
第3日	8月6日(月)	会場	セントパレス倉吉
		時刻	9:00～10:30
		午前	閉会行事・講評・特別講義 交流行事(閉会后)

9. ゲストコメンテーター 東京大学大学院教育学研究科 本田 由紀 教授
名古屋大学大学院情報学研究科 久木田 水生 准教授

10. 参加者・発表テーマ 言語技術同好会他 5人
発表テーマ「知識よりも大切なもの」

<生徒の感想（抜粋）>

- ・今回のフォーラムで他校の生徒さんの発表を聞いたり、討論で意見を述べあったりした経験は、今後の自分にとってとても有益なものになったと感じました。普段の学校生活で外国の方と接したり、ましてや同じテーマについて意見を述べ合うような経験はなかなかできるものではないので、フォーラムでの三日間はとても貴重な時間になりました。
- ・発表の原稿を考えるにあたり、私たち米子東高校では「AIにはできない人と人との繋がり」という点を軸に考えを広めていくことになり、私たちの中では他の学校も同じような内容の設定なのではないかと話していました。しかし、一つとして同じ内容の発表はなく、私たち人間の考えの多様性を知って驚きました。

(4) 科学の甲子園（予選）

1. 目的 高等学校及び高等専門学校（以下、「高等学校等」という。）の生徒を対象として、科学技術・理科・数学における複数分野の競技会を開催することにより、県内の科学好きな生徒が集い、切磋琢磨する場を提供することで、知的好奇心を喚起し、科学好きの裾野を広げるとともに、理数分野の学力の伸長を図ることを目的とする。
2. 期日及び会場 (1) 期日 平成30年11月4日（日）
(2) 会場 鳥取東高等学校
(コモンホール、物理、化学、生物実験室及び講義室)
3. 参加資格及び参加人数 県内の高等学校等の第1学年又は第2学年に在籍する生徒（高等専門学校にあっては同年次の学生）6名以上8名以内で1チームを編成し、各学校からの参加チーム数は3チーム以内とする。ただし、大会への参加チーム総数は12チームまでとし、12チームを超える応募があった場合は、1校からの参加チーム数を制限する場合がある。
4. 日程及び競技方法等
 - (1) 日程 受付 午前10時00分から午前10時30分まで
開会式 午前10時30分から午前10時45分まで
実験競技 午前11時00分から午後0時15分まで
昼食 午後0時15分から午後1時00分まで
筆記競技 午後1時15分から午後2時15分まで
審査及び結果発表（表彰式） 午後2時15分から午後4時15分まで
 - (2) 競技方法
ア 午前の部
 - ・各チームの生徒は、物理実験、化学実験及び生物実験の3つの競技に分かれ、複数人で協力して競技に取り組む。
イ 午後の部
 - ・各チームの生徒は、全員で協力して筆記競技に取り組む。
 - ・筆記競技は、物理・化学・生物・地学・数学・情報の中から、習得した知識をもとにその活用について問う問題で競うものとする。なお、教科・科目の枠を超えた融合的な問題も出題される場合がある。
 - ウ 筆記競技出題範囲の概要 中学校までの学習内容に、以下の範囲を加えて出題する。
数学・・・数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B全範囲
物理・・・物理基礎、物理全範囲
化学・・・化学基礎、化学全範囲
生物・・・生物基礎、生物全範囲
地学・・・地学基礎、地学全範囲
情報・・・社会と情報、情報の科学全範囲
※なお、上記範囲を逸脱する問題では、誘導形式の出題を行うよう留意するものとする。
- (3) 表彰等
ア 午前の部と午後の部の総合得点が高かった3チーム、筆記競技の得点が高かった3

チーム及び各実験競技別得点が最も高かったチームを、それぞれ表彰する。
イ 午前の部と午後の部の総合得点が最も高かったチームには、「第8回科学の甲子園全国大会」への出場権を与える。

※「第8回科学の甲子園全国大会」は、平成31年3月15日(金)から3月18日(月)までの日程で、ソニックシティ及びサイデン化学アリーナを会場に実施される。

5. 参加者 希望者生徒 24人
6. 結果 筆記協議 2位 米子東C 3位 米子東A
総合 2位 米子東C

(5) 日本野球科学研究会 第6回大会 in 筑波大学

1. 大会テーマ 子どもたちへ伝えたい～野球の未来を語ろう～
2. 日時 2018年12月1日(土)・2日(日)
3. 場所 茨城県つくば市 筑波大学筑波キャンパス体育芸術エリア
4. 日程 12月1日(土) 12:00～13:00 受付
13:00～13:10 開会式
13:10～15:00 シンポジウムⅠ
15:10～15:50 総会
12月2日(日) 8:30～9:00 受付
9:00～10:30 シンポジウムⅡ
10:45～12:00 オンコートレクチャー
12:00～13:00 昼食
13:00～14:15 ワークショップ
14:30～16:00 講演
16:00～16:15 閉会式
5. 参加者・発表テーマ 硬式野球部他4人
発表テーマ「ゴロ打ちは正しいのか」
「表情や姿勢および言動とパフォーマンスとの関係について」
6. 結果 特別新人賞受賞

(6) 平成30年度鳥取県高校生理数課題研究等発表会

1. 目的 各学校で取り組んでいる理科及び数学の課題研究等に係る発表会を開催し、生徒の相互研鑽を図ることによって、思考力・判断力・表現力や学習意欲の向上を促す。また、研究者による講演会を開催することによって、学習への動機付けを図る。
2. 日時及び日程 平成31年2月17日(日) 午前10時から午後4時30分まで
開会式 10:00～10:10
講演会 10:10～11:10
講師 長谷川修司教授(東京大学大学院理学系研究科)
演題 「ノーベル賞は遠くないーナノサイエンスを例にしてー」
ポスター発表 11:20～12:20
口頭発表 13:10～15:40
休憩 15:40～16:10(審査員は審査)
閉会式 16:10～16:30(講評及び結果発表、表彰)
3. 会場 米子コンベンションセンター
〒683-0043 鳥取県米子市末広町294 電話 0859-35-8111
4. 参加資格及び参加人数 鳥取県内の高校に在学し、各学校で理科及び数学の課題研究等(部活動等での研究活動も含む)に取り組んでおり、次の要件を満たす発表ができる生徒。
【口頭発表】 グループ(人数は問わない)又は個人で発表する。発表するテーマは理科及び数学の研究に関するもの(産業教育に関するものを除く)で、校外で未発表のものに限る。原則として、

1校からの参加は3グループまでとする。

【ポスター発表】 グループ（人数は問わない）又は個人で発表する。発表するテーマは理科及び数学の研究等に関するもの（産業教育に関するものを除く）で、校外で発表したものも可とする。原則として、1校からの参加は4グループまでとする。

5. 参加グループ・発表 発表数 7 参加人数 22人
発表テーマ 「イモリの赤血球培養」
「直接エタノール型燃料電池の起電力測定」
「三角比を用いた測定法より正確に直接測れないぐらい大きなものを測定する方法」
「なめらか⇔書きやすいは真か偽か？」
「野菜がもつ色素の分析」
「項を変えたことによるパスカルの三角形への影響」
「面の状態次第でよりなめらかな面を作りだせるか」

(7) 京都大学ポスターセッション 2018

1. 目的 研究発表（ポスターセッション）を通じて、高校生が日頃の課題探究活動の成果を府県や学校の枠を越えて披露し、その後の自らの探究心及び知的創造力のさらなる向上を目指す。
2. 会場 京都大学 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
3. 日程 平成31年3月15日（金）午後移動
3月16日（土） 11：30～開場、ポスターレビュー開始
12：50 開会挨拶
13：00～若手研究者とのフリートーク
13：00～ポスターセッションⅠ
14：00～ポスターセッションⅡ
15：00～全体講評、優秀ポスター賞発表
終了後米子へ移動
4. 参加グループ・発表 発表生徒5人 一般参加生徒7人
発表テーマ「カラスの寄りやすい色について」
「ケイソウの発生を抑えるミドリムシ培地」

4. 検証

文理問わず、多彩な分野の発表会・イベントに積極的に多くの生徒が参加した。特に硬式野球部を中心とした発表は、全校を挙げてのSSH活動を掲げる本校にとって、生徒に好影響を与えるロールモデルとなるものであった。参加生徒が「課題探究基礎」「課題探究応用」において、リーダーとして活躍する姿が確認された。